

職員による自己評価	保護者による評価
<p>A 環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 子供が活動するエリアはバリアフリーとなっている。立地的には駅近（徒歩1分）だか、閑静で一般道路から隔離されており安全である。</li></ul> <p>B 職員のスキルアップ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 研修を通じて職員の能力向上を目指し、子どもたちの個性に対する理解を深めています。</li></ul> <p>C 協力体制</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 相談支援員と協力し、子どもたちに適した支援方法について話し合っています。</li><li>- 保護者との定期的な面談を実施し、情報をスタッフ全員で共有した上で、個別支援計画を策定しています。その後も子どもの成長に応じて計画を見直しています。</li></ul> <p>D 保護者とのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 保護者からの相談には随時対応しており、日々の連絡帳を利用した報告や送迎時の情報共有を行っています。緊急を要する事項には迅速に対応しています。</li></ul> <p>E 緊急時対策</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 避難訓練を定期的実施していますが、保護者への情報提供についてはまだ改善の余地があります。</li></ul>	<p>A 環境面</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 保護者が施設・活動を観察する機会が欲しい。</li></ul> <p>B 支援の質</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 楽しいプログラムが提供されている点は評価している。</li><li>- 定型発達児との交流については、現状で特に必要性を感じていない。</li></ul> <p>C 保護者とのコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 保護者のニーズに応じて面談を実施し、必要に応じてオンラインでの面談も行なっている。</li></ul> <p>D 満足度</p> <ul style="list-style-type: none"><li>- 多様なプログラムが提供されており、学校以外の居場所が提供されていることに感謝している。</li><li>- イベントが楽しみである。</li><li>- 送迎サービスが便利である。</li></ul>



## 事業所内での分析

### 1. 職員のスキルアップと専門性：

職員は研修を通じてスキルアップし、子どもたちの個性への理解を深めている。

### 2. 保護者との良好なコミュニケーション：

保護者からの相談に随時対応し、緊急事項には迅速に対応している。また、定期的な面談やオンラインでのコミュニケーションを通じて保護者のニーズに応えている。これは、保護者との信頼関係を築き、開かれたコミュニケーションを維持している。

### 3. 多様なプログラムとイベントの提供：

保護者から提供のプログラムやイベントを高く評価してもらっており、事業所の魅力の一つとなっています。子どもたちにとって学校以外の居場所を提供し、彼らの社会的スキルや学習意欲を促進している。

事業所の強み	事業所の改善点
<p>1. 多様なプログラムとイベントの提供： 保護者は事業所が提供する楽しいプログラムとイベントを高く評価している。これらは子どもたちにとって魅力的であり、学校以外の居場所としての役割を果たしている。イベントは特に楽しみにされており、子どもたちの社会的スキルや学習意欲を促進する要素になっている。</p> <p>2. 効果的なコミュニケーションとサポート体制： 保護者は事業所が随時相談に応じ、</p>	<p>1. 環境整備の改善： 保護者が環境を観察できる機会を増やす。</p> <p>2. プログラム内容の調整： 子どもたちのニーズと興味に合わせてプログラムを調整する。定型発達児との交流の機会は、保護者と話し合い進めていく。</p> <p>3. 保護者とのコミュニケーション強化： 定期的な面談やオンラインコミュニケーションを活用し、保護者の意見や要</p>

<p>緊急事項に迅速に対応する点を評価している。また、定期的な面談やオンラインでのコミュニケーションを通じて、保護者のニーズに合わせたサポートを提供していることが強みになっている。</p> <p>3. 送迎サービスの提供： 送迎サービスは保護者にとって大きな助けとなり、事業所の利便性を高めている。このサービスは、特に忙しい保護者にとって、事業所を選ぶ際の重要な決め手となっている。</p>	<p>望をさらに積極的に取り入れる。</p> <p>4. 緊急時対策の強化： 避難訓練や緊急時の対応計画について、保護者への周知と理解を深める。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

### 事業所の改善への取り組み

#### 1. 環境整備

- 保護者が施設や活動をよりよく観察できるように、オープンデイの機会を増やす。

#### 2. プログラム内容のさらなる改善

- 子どもたちの興味やニーズに合わせてプログラムを柔軟に調整し、より参加を促す活動を提供する。
- 定型発達児との交流に関しては、保護者との対話を通じて必要性と可能性を検討し、適切な機会を設ける。

#### 3. 保護者とのコミュニケーションさらなる強化

- 定期的な面談やオンラインコミュニケーションをさらに充実させ、保護者の意見や要望を積極的に取り入れる。
- 保護者のフィードバックを事業所の運営やプログラム改善に活かすためのシステムを整備する。

#### 4. 緊急時対策の強化

- 避難訓練や緊急時対応計画について、保護者への周知を強化し、理解と協力を促進する。
- 緊急時の情報伝達手段を見直し、迅速かつ効果的なコミュニケーション体制を確立する。

これらの取り組みを通じて、事業所は保護者との信頼関係をさらに強化し、子どもたちにとってより良い学習環境と成長の場を提供することを目指す。

#### 事業所の改善への取り組み

～自己評価を行なったの事業所としての感想など～

事業所として、我々は常に質の高いサービスを提供し、子どもたちと保護者のニーズに応えることを目指しています。自己評価を通じて、改善を進めていきます。

#### 強みとしての自己評価

- プログラムとイベントの質：我々が提供する多様なプログラムとイベントは、子どもたちにとって魅力的であり、保護者からも高い評価を受けています。これは、子どもたちの社会的スキルや学習意欲を促進する重要な要素です。
- コミュニケーションとサポート体制：保護者との効果的なコミュニケーションと迅速な対応は、信頼関係の構築に貢献しています。また、送迎サービスの提供は、事業所の利便性を高めています。

#### 改善が必要な領域

- 環境整備：保護者が施設や活動をより深く理解し、観察できる機会を増やす必要があります。これにより、透明性と信頼性をさらに高めることができます。
- プログラムの柔軟性：子どもたちの興味やニーズに合わせてプログラムを柔軟に調整し、定型発達児との交流の機会を検討することが重要です。

## 総括

自己評価を行なった結果、我々は事業所として多くの強みを持っていることを確認しましたが、同時に改善すべき点も明らかになりました。これらの改善点に取り組むことで、我々は事業所をより良いものにし、子どもたちと保護者にとって最適な環境を提供できるよう努めていきます。

事業所名 カルチャーズデイ

担当者 宮城敏浩